



初春の光新たな年の幕開けに さらなる助産師教育の充実をめざして

公益社団法人全国助産師教育協議会会長
日本赤十字看護大学大学院 井村 真澄

新年明けましておめでとうございます。

みなさまにおかれては、初春の光に満ちた新年を迎えることと思います。同時に、新年の寿ぎの余韻に浸ることもそこそこに、はや日々の教育に邁進する皆さまのお姿も目に浮かびます。

新年の幕開けは、助産学生さんたちとの秒読み段階の数ヶ月の始まりです。来るべき2月15日の助産師国家試験、試験問題分析と厚労省への報告、3月の感無量の卒業式/修了式、続く3月26日「サクラサク」吉報に安堵する教員—そしていよいよ「新人助産師」たちは4月の陽光まばゆい桜吹雪のなか、社会に一步を踏み出します。

私たち教員が精魂こめて育て、毎年社会に送り出している「新人助産師」は、設定された規格すなわちICM国際規準、日本国内基準卒業時到達レベルに達しているのでしょうか？現代日本の社会のニーズに適合した助産ケア能力を備えているのでしょうか？残念ながら、満面の笑みをもってYES!とはいえない現状があることを、私たちは強く認識しています。

一方で、いま、助産師にはこれまで以上に、幅広く高度な実践能力を身に着けることが必要となっています。専門職としての基盤をなす倫理的課題対応能力と専門的自律能力、高年齢化・ハイリスク化する妊娠・出産・新生児・家族に対応できる高度医療現場での助

産ケア能力、院内助産や助産所において自律して妊娠・出産・育児の各期をカバーできるマタニティケア能力を向上させることが求められています。加えて、国を挙げて女性の社会進出施策が押し進められている現在、生涯にわたる女性の健康を支援するウイメンズケア能力、女性・子ども・家族を支える子育て世代地域包括ケアシステムの中で多職種と家族と連携・協働できる能力など、差し迫る今日的課題に対応するための多様な実践能力が求められています。

これらの社会のニーズと期待に応えるためには、助産師教育に携わる教員も、学修する助産学生も、共にチャレンジングな教育—学修課題に創意工夫をもって取り組み、確実な成果を出していくことが必要です。教員には、助産学生が卒後「新人助産師」として成長できるしっかりした土台を作り、助産学生が実践現場へスムーズに移行できる橋渡しをする責務があります。

全国助産師教育協議会は将来ビジョンの実現に向けて、会員の皆さまと心を合わせ、力を合わせ一丸となって、社会のニーズと期待に応えられるよう活動を展開いたします。今年も力強くともに進んでまいりましょう。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。

扉	1
ニュース	2
全助協からのお知らせ	5
教育・活動報告	8

トピック	10
わかばの部屋	13
理事会報告	14

助産師教育研修研究センターの現在とこれから

助産師教育研修研究センター 担当理事
新潟青陵大学 渡邊典子

2013年に全国助産師教育協議会（以後、本会とする）に助産師教育研修研究センター（以後、センターとする）が設置され、今年で5年目となる。センター設置の背景には、現代女性の多様なライフサイクルに沿ったヘルスサービス提供のために、助産師への幅広い役割達成に向けた専門性の高い継続教育、そして、助産師教育を担う教員への助産実践力を基盤とした助産観と教育観にうらづけられた助産師教育実践力、広い視野と豊かな人間性、創造力を養う必要性が求められていることにある。加えて、助産師養成所の教員対象とした厚生労働省看護研修研究センターでの研修が2010年に廃止された。これにより、助産師教育に特化した教育実践力を身につける機会がなくなってしまった。本会は、助産師教育に携わる者が、高度な助産実践の教育力を習得・維持し、助産師教育の質の向上への生涯学習の場として資することを目的にセンターを設置した。本稿では、センターが現在、実施している事業の概要とセンターのこれからについて述べたい。

センター事業は、①助産師教育に関わる教員を対象とした研修、②助産師教育に関わる臨床指導者を対象とした研修、③研究機関に属さない助産教員を対象に助産研究能力の向上を目指した支援の3つを意図している。現在、実施している事業は、2013年からのファーストステージ研修、2015年からの厚生労働省認定の特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会、およびCLOCMiPレベルⅢ認証申請のための研修を行っている。

ファーストステージ研修は、助産師教育に携わる若手の教員や臨床指導者が、助産実践力を基盤に助産観と教育観に裏付けられた教育力を養い、ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることを目的とし、8単位：240時間の1年間研修（実質33日）を行っている（平成25～28年度は10単位：330時間）。2013年、2014年度は東京を会場、2015年、2016年度は大阪を会場として実施し、2017年度は東京を会場としている。講師陣は、その道の専門性を追求し

ている方々に依頼し、助産師教育の根幹及び中核をなす教科目を公開講座として開講している。2016年度までのファーストステージ研修の修了生は37名であった。

厚生労働省認定の特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会は、助産師教育に携わる実習指導者、または将来、実習指導者となる予定の者および教員が助産師教育に関する理解を深め、助産学実習における効果的な指導のために必要な知識、技術を習得することを目的としている。東京、大阪の2地区ともに6日間、40時間の教育内容となっている。既に2017年度の研修も終了し、これまでの修了者は289名であった。

CLOCMiPレベルⅢ認証申請のための研修会は、2015年から開始されたアドバンス助産師の申請のため、日本助産評価機構助産実践能力推進協議会（日本看護協会、日本助産師会、日本助産評価機能、日本助産学会、本会）が立ち上げたものであり、日進月歩の実践場面で必要とする教育内容を定員100名の公募のもとに東京地区と大阪地区で各1日開催し、受講生に修了書を発行している。以上のセンター事業は、今後も継続していく予定である。

次にセンターが現在検討していること、およびこれからについて述べる。まず、2015年に本会は助産師教育における将来ビジョンの1つとして、「助産師教育の質保証に貢献できる教育者の能力向上を促進する」を提示した。このビジョンの活動根拠として「助産師教育関係者、すなわち教員と臨床指導者のための研修を行う」としており、すでに述べたセンター事業の各々は、これに値するものである。それに先駆け、2014年に本会の組織強化委員会から「助産師教員のキャリアラダーの概要」がデルファイ調査により作成されている。このキャリアラダーは、臨床能力、教育能力、研究能力、管理能力を横軸として、レベルⅠ～Ⅴの縦軸によってラダー内容が位置づけられている。これらの本会の動きをふまえ、センターでは、助産師教員のラダー形成マトリック

スを作成するとともに、ファーストステージ研修に続くセカンド・ステージ研修の実施に向けたカリキュラムの検討を始めている。また、研修の受講しやすさ、利便性という観点から、2018年度からのE-learningシステムの導入も実現に向け進めている。一方、本会の会員校の教員、および個人会員を対象にセンター事業の意義に対して、組織規模や人材、効果的な財源活用の視点から、今後の在り方等の見直しを行うための基礎的資料を得ることを目的に、「助産師教育担当者に対する研修会開催のニーズ調

査」を2017年11月に行った。まずはこの場をお借りし、ご協力いただいた皆様へ御礼をお伝えしたい。この調査結果をもとにセンター事業の見直しや運営方法等を再構築する機会とするとともに、女性及び母子の健康支援に欠くことのできない助産師養成のために、教育の質向上を目指す全国組織である本会のビジョンに貢献していくことが、センターの役割であると考えている。今後も本会会員校の教員および個人会員の皆様からのご協力、ご支援を賜れば幸いである。

◎医学書院の助産師向け書籍

**飲んで大丈夫? やめて大丈夫?
妊娠・授乳と薬の知識** 第2版

編集 村島温子・山内 愛・中島 研
妊婦からの質問にどのように対応するよいか、Q&A形式でわかりやすく解説。改訂第2版では、嗜好品や近年増加傾向にある「炎症性腸疾患」についての記述を新たに追加。
●A5 頁192 2017年 定価:本体2,200円+税 [ISBN978-4-260-03021-2]

家族計画指導の実際 第2版 増補版

木村好秀・齋藤益子
助産師の重要業務としての「家族計画指導」。その考え方に始まり、基礎知識、指導の実際まですべてがこの1冊に凝縮されている。
●B5 頁200 2017年 定価:本体3,000円+税 [ISBN978-4-260-03048-9]

ウエルネスからみた 母性看護過程
十病態関連図 第3版

編集 佐世正勝・石村由利子
妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期ごとに、「正常経過とアセスメント」「異常とケア」の2部構成。豊富な情報から実習記録の悩みもスッキリ解消。母性看護過程の決定版。
●A5 頁1016 2016年 定価:本体3,800円+税 [ISBN978-4-260-02838-7]

産み育てと助産の歴史
近代化の200年を振り返る

編著 白井千晶
出産が医療化する以前までお産に携わってきた取り上げ婆から現代の助産師まで、出産に携わる女性たちの歩んできた激動の歴史を綴る1冊。
●A5 頁320 2016年 定価:本体2,800円+税 [ISBN978-4-260-02482-2]

医学書院 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <http://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp

Willnext

ウィルネクスト

約68%割引 年間掛金 6,200円
年会費100円と共済制度運営費370円を含む

「ケガ・感染・日常の賠償」(団体総合生活保険+共済制度)は、
4つの補償を備えた
医療従事者のための補償制度です。

このご案内は、Willnext「ケガ・感染・日常の賠償」の概要をご紹介したものです。ご加入にあたっては、本フレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は取扱代理店までお問い合わせください。

制度運営 一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 医療・福祉法人部 法人第一課
〒1102-8014 東京都千代田区三番町6-4 ラ・メール三番町 TEL: 03-3515-4143

1 ご自身のケガ

2 日常生活における賠償責任

3 感染見舞金制度 インフルエンザ等による自宅待機期間にも見舞金

4 業務中の針刺し事故等にも検査代相当の見舞金 **New**

保険期間 2017年3月31日午後4時～2018年3月31日午後4時まで (毎月中途加入を受け付けております)
詳細につきましては下記取扱代理店までお問い合わせください。

資料請求・お問い合わせ先 取扱代理店
株式会社メディックプランニングオフィス 〒104-0033 東京都中央区新川12-22-6 5Jビル2F
☎0120-847861 9:00～17:00(土・日・祝日・年末年始を除く) 17-T03494 (2017年6月作成)

婦人科診察トレーナー

LM-110 標準価格 ¥390,000 (税別)

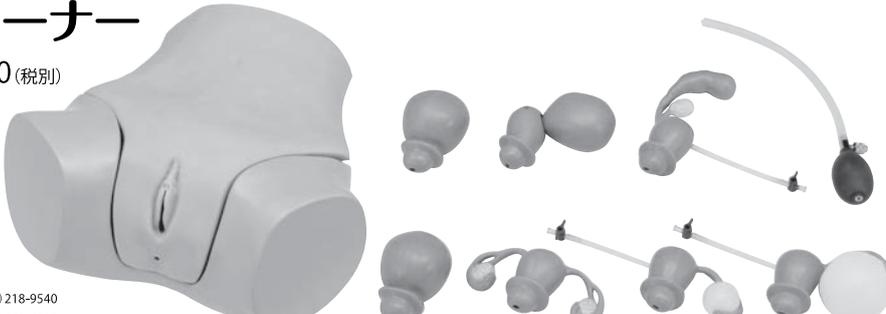
基礎的な婦人科診察の実技指導が可能なモデルで、パップスメアのトレーニングができます。

KOKEN 株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)218-9540
東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp

LIFE SIMULATION MODELS



© 2017 KOKEN CO., LTD.

将来構想委員会からの活動報告

将来構想委員会 担当理事

神奈川県立保健福祉大学 村上明美

皆様におかれましては、日頃より質の高い助産師教育に向けてご尽力されていることとご推察いたします。全国助産師教育協議会将来構想委員会の2017～2018年度担当理事となりました村上明美（神奈川県立保健福祉大学）です。よろしくお願いたします。2年間の空白はございますが、以前も理事を務めておりました。ただ、将来構想委員会を担当するのは初めてであり、委員会が担う役割や責任の重さをひしひしと感じながら、新たな活動に新鮮な気持ちで取り組んでおります。

この度の将来構想委員会のメンバーは、委員長の高田昌代先生（神戸市看護大学）、委員の江藤宏美先生（長崎大学）、谷口初美先生（九州大学）、倉本孝子先生（愛仁会本部看護部）、秋田浩子先生（ベルランド看護助産専門学校）の5名となりました。とても精力的で頼もしい方々ばかりです。

本稿では、将来構想委員会が取り組んでいる活動について報告させていただきます。

将来構想委員会は現在、「助産師教育における将来ビジョン2015」の実現に向けた理事会での検討内容や意向を受け、全国助産師教育協議会が目指す「これからの助産師教育」を見える化する作業に取り組んでいます。具体的には、育てたい助産師像、助産師が有するべき能力、能力修得に効果的な教育方法、必要な学習内容・単位数などを明らかにしていくつもりです。それを基盤として、いずれ「全国助産師教育協議会版（基本的な）助産師教育カリキュラム」を会員校の皆様にご提示することになると思われま

す。しかしながら、われわれが今取り組んでいる上記の作業は一筋縄でいくものではありません。その理由の根幹は、現存する多様な助産師養成課程にあります。わが国の助産師教育は、現在、専門職大学院、大学院修士課程、大学専攻科、大学別科、大学選択課程、短大専攻科、専修・専門学校の7つの養成課

程で行われており、それぞれ修業年限や教育内容、卒業（修了）後に得られる学位などが異なっております。そのような状況の中で、全国助産師教育協議会は助産師教育のあり方に一つの方向性を示そうとしているわけです。言い換えれば、助産師養成課程を「一本化」しようという試みです。

「一本化」を達成するためには、越えなければならない課題が山積しております。まずは会員校の理解を得ることが大切です。その他にも、関係省庁への働きかけ、関連団体等への説明、学生が受けたいと思う助産師教育の価値の向上、会員校の経営上の問題への対応、助産師教育を担当する教員の数と質の確保、女性や社会の助産師教育に対するコンセンサスを得ることなど、もっともっと様々な問題や課題が出てくることでしょう。

国内にはすでに大学院で助産師教育を行っている学校も存在しており、その教育との相違も明確に示していく必要があります。また、本協議会の教育検討委員会が中心となり数年かけて作成した「大学院における助産師教育のモデル・コア・カリキュラム（案）」を、どのように「これからの助産師教育」に活かしてしていくかも考えていかなければなりません。

現時点では、「いつまでに、何を、どこまで」をお伝えできるほど先は見えておりませんが、将来構想委員会がこれまでにない壮大な取り組みを行っていることは事実です。一つ一つの段階ごとに会員の皆様に経過をご報告させていただき、広くご意見をうかがうつもりです。

このような取り組みは、全国助産師教育協議会の会員が一丸とならなければ実現は見込めません。会員の皆様には、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただくとともに、活動に対してもご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第9回（通算54回）公益社団法人全国助産師教育協議会社員 総会開催のお知らせ

担当理事

高崎健康福祉大学大学院 大石 時子

日時：2018年6月9日（土）、10日（日）

場所：高崎健康福祉大学

住所：群馬県高崎市中大類町 37-1

高崎市は上越新幹線と長野新幹線をはじめ、関越自動車道と上信越自動車道の分岐点となるなど、交通拠点都市であり、新幹線では東京から1時間の至近距離にあります。高崎駅から大学まではスクールバスをチャーターし皆様を送迎する予定です。助産師をとりまく社会の様相も早いスピードで変化していく今日、助産師教育に確かなビジョンを持っていくため、会員校の皆様には、総会にぜひともご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

新幹線でアクセス



第32回 日本助産学会学術集会 プレコンgress 3のご案内

テーマ 子育て世代包括システム時代に求められる助産の力
- 助産実践能力育成を考える -

主催 全国助産師教育協議会

日時：2018年3月2日（金）〔第32回日本助産学会学術集会の前日〕 13:40～15:20

場所：パシフィコ横浜 4階 第4会場

いま日本では、女性の職業における活躍、社会進出が超加速されています。同時に、女性活躍と家族を支える子育て世代包括支援センターやケア構想も本格始動しています。いま、地域包括ケアシステム構築に参画でき、システムを効果的に運用できる実践能力を備えた人材を育成することは、助産師にとってチャレンジングな教育課題です。皆さんと一緒に、いま、日本で待ったなしの現場リクエストに応えうる実践能力の育成/獲得

について考えましょう！奮ってご参加ください。

プログラム

1. 子育て世代包括支援センターについて
厚生労働省母子保健課 中根 恵美子 先生
2. 助産実践能力を育成する教育方法の調査より
日本赤十字看護大学大学院 齋藤 英子 先生
3. 地域包括ケアの現場から渴望する助産師の力
和光市 和光産前・産後ケアセンター
伊東 優子 先生

参加費 無料 定員 130名

申し込み連絡先 mail アドレス

zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

第43回 全国助産師教育協議会 全国研修会

関東甲信越地区担当
東都医療大学 岩崎和代

平成29年度の全国研修会は平成30年2月10日(土)・11日(日)「技の伝承・つなぐ・キャリアを育む」(仮題)をテーマに開催され、関東・甲信越地区が担当致します。

2015年、本協議会も関連団体として創設されたCLOCMiPレベルⅢ認証制度が始まり、助産業務に従事しながら、社会の変化や期待に対応できる助産経験、その期待に応えるために必要な研修等を受講、助産に関する知識や技術のブラッシュアップ、を一定水準として求めています。2年間の認証取得者数は11,002人(就業助産師の32.4%)で、就業助産師の実践能力への第三者評価への関心の高さが伺えます。

そこで本研修会では、助産師教育を卒業した助産師の実践能力や専門職としてどのようにキャリアを育んでいくのかを問いに、「助産師の技、職業継続の岐路と今・未来」をテーマに講師の先生方をお招きし、助産師教育への示唆を頂きますようご講演をお願いしております。

1日目は、「職人技術の伝承」に焦点をあて、基調講演1として日本伝統建築技術保存会会長の西澤政男先生にご講演を賜ります。西澤先生は彦根城等の城の修復を手掛ける宮大工です。「助産師の技」については基調講演2として日本助産師会会長の山本詩子先生にご講演を頂きます。さらに西澤先生と山本先生、助産師教育に長年携わってこられた亀田医療技術専門学校の熊澤美奈好先生の3人による「職人技術の伝承 普遍性と変革」をテーマにセッションを予定しております。

2日目は、「助産師の職業継続性と岐路そして今・未来」をテーマに助産師として働き続ける4名のパネリストをお招きし、それぞれが歩む職業人生をお話し頂き、受けた助産師教育と今など、パネリストが歩み続ける助産師という専門職についてセッション頂きます。「キャリアを育む」の最後は、シンクタンク未来教育ビジョン代表の鈴木敏恵先生を講師にお招きし、教育講演「将来のキャリア形成につなぐ意志ある学びを実現するために」をテーマに教員や臨地指導者の皆様に有意義なご講演を頂きます。

その他の企画と致しまして、ワークショップ「子宮頸がん検診における検査を助産師教育に取り入れるために」、パネルディスカッション「助産師教育における硬膜外麻酔分娩を考える」、の2つを準備致しました。子宮頸がん検診は、今年の本協議会総会でもご講演があり、地区研修でも演習など経験されている先生方もおいでと思います。今回は子宮頸がん検診に関わるさらに具体的なお話を頂き、検体採取演習(人数限定)を予定しております。硬膜外麻酔分娩の特別講演として、日本における産科麻酔の第一人者であります埼玉医科大学総合医療センター産科麻酔科・教授の照井克生先生にご講演を、4名の先生方によるパネルディスカッションを予定しております。

2日間盛りだくさんの企画ですが、場所は千葉県の幕張です。国家試験を前に緊張とお疲れの先生方を癒し、活力を養う場も会場周辺にはございます。皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

シリーズ【看護の知】

亡くなった子どもと「共に在る」家族

蛭田明子 著 ●A5判 176頁 定価(本体2,400円+税)

子どもを亡くした女性と家族を医療者はどのように支援できるのか

死産や新生児死亡を経験した女性の語りを通して、これまで浮き彫りにされてこなかった女性の本当の想いを知ること、医療者に求められる支援は何かを考えます。

【注 内 容】 I プロローグ—女性の語りに耳を傾ける
II 4人の女性の語り
III 家族の変容における女性たちの体験
IV 語りを読み解く
V 看護者は女性たちをどのように支援できるのか
Appendix【付記】
●方法論および解釈における理論前提
●研究の具体的な方法



シリーズ【看護の知】とは
◎学術論文として言語化された看護の実践知を、その分野の研究者だけでなく、現場で働く看護職などに読んでいただけるよう、読み物として再構成。
◎看護の暗黙知を発見し、実践に生かすことで未来の看護を切り拓いていく、というコンセプトのアカデミズムと臨床現場をつなぐ新シリーズ。



日本看護協会出版会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル4F (営業部) TEL.03-5778-5783 FAX.03-5778-5786

<http://www.jnapc.co.jp>

【コールセンター(ご注文に関するお問い合わせ) TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272】

第31回 ICM トロント大会報告

国際関連活動委員会担当理事

高崎健康福祉大学大学院 大石 時子

第31回 ICM3年ごと大会がカナダのトロント市で6月18日から22日まで開催された。トロント大会には114か国4000人以上の助産師が参加しICM大会史上、最大の規模となった。日本からの参加者は220人でカナダ、アメリカについて5番目に多い参加国であった。ポスターの展示は日本からの発表が最多であった。

今回の大会は、Midwives—Making a difference in the world (助産師—世界で変化を起こす)をメインテーマにリーダーシップ、パートナーシップ、プロフェッショナルリズムを通して、また女性と少女の権利を支持して変化を起こす、の4つの視点から全体会が行われていた。

今大会の特徴は、アフリカ諸国などで、助産師がUNFPA (世界人口基金) 等の他団体とパートナーシップを組み妊産婦死亡率の低下に成功してきた成果に強調点があったことではないかと考える。それに比して、妊産婦死亡率は低い、医療介入が非常に増えている国々の問題には、あまり焦点が当たっていなかったようにも感じられた。実際、英国の助産師のリーダーであるレズリー・ペイジ氏が、出産に対する過度な医療介入に関しもっと論議をするべきだと、発言していた。

コンピタンス (Essential competencies) と Global Standards は2017年末に改訂予定

教育については、Essential competencies (基礎的助産業務に必須な能力) の改訂や Global standards の実行に関する ICM のワークショップが開催された。

現在の Essential competencies (基礎的助産業務に必に須な能力) は、2010年版が2013年に多少修正されたものであり、2017年に改訂が予定されていた。その改訂を目指して、2016年に3回のデルファイ調査が世界中で行われた。105か国、126加盟団体が参加したと報告された。結果的には、今までと同じ項目内容であるが、構成が変更になった。今まで全体で7章あったものが、4章に再構成され、4章目に周産期と reproductive health/rights が入っ

ている。また今までの418項目が320の基礎能力 (essential) と98の追加の能力 (additional) または国に特化した項目 (e.g. マラリア) に分けられた。基礎か追加かについては80%以上の項目は2013年版と同じだが、中には今までの基礎能力とされていた項目で追加項目の方に移動された項目や、今まで追加項目であったが基礎能力の方に入った項目などもあるようだ。原案が発表になったワークショップでは、賛否両論の様々な意見が出された。項目内容には変えられないそうだが、今後表現や構成の見直しを行い、秋ごろにICMの評議会で決定する予定である。

助産教育の Global standards についても、米国やラテンアメリカで、世界基準と国内の基準のギャップの分析を行ったことが報告された。今後も意見の聴取を行い、改訂に向けて2017年年末までにICMの理事会に報告をする予定であるとのことだった。

これらの課題に取り組む主体となっていく教育常設委員会が開催され、新しい役員体制が確認された。

全国助産師教育協議会も日本のブースで展示

日本からは、ICM加盟団体である日本助産師会、日本助産学会、日本看護協会の3団体と日本助産評価機構、そして全国助産師教育協議会も加わって5団体がひとつのブースを共有し、それぞれの視点から、日本の助産をアピールした。全国助産師教育協議会は、全助教の理念のほかに、助産師教育制度を解説し、歴史的な変遷を示したポスターを作成して展示した。ブースには様々な国から助産師が訪れ、日本の折り紙等の文化に関心を示していた。

ICMの新体制がスタート

3年間ICMの会長を務めた英国のフランシス・デイスターク氏は任期を終了し、オランダ助産師会からのフランカ・カディ氏が新会長に選出され新しい理事体制が敷かれた。

次大会はインドネシアのバリで、次次大会は、アラブ首長国連邦のアブダビ市で開催される。

第42回全国助産師教育協議会全国研修会報告

九州・沖縄地区担当

前宮崎大学大学院助産学研究科 兵頭慶子

平成29年3月3日（金）から5日（日）に「つなぎ・拓く、教育力アップを目指して」をテーマとし、宮崎大学、宮崎観光ホテルにおいて開催されました。参加者は、会員81名、非会員18名、学生13名、計112名でした。また、宮崎大学における学生交流会への参加者は、学生25名、教員7名、計32名でした。

プログラム [3月3日] 学生交流集会

演題「学生からみた離島実習」北原愛子鹿児島大学大学院院生、他

奄美大島と徳之島の出産子育てに関するニーズと実習状況について伺い、その後質疑応答・意見交換が活発に行なわれました。其々の教育、特に実習状況を共有し合うことができました。

[3月4日] 井村真澄会長による開会挨拶、池ノ上克宮崎大学学長から歓迎挨拶後開始しました。

*演題「子宮を守るために - 助産師と子宮頸がん -」大石時子全助協理事

*演題「助産師として知っておきたい薬剤の知識」柳田俊彦宮崎大学大学院看護学研究科教授

*演題「専門職の裁量とキャリア開発」武村雪絵東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻看護管理学／看護体系・機能学分野准教授

*演題「低出生体重児の地域・施設連携」

原田純子今給黎総合病院 NICU 副師長

[3月5日]

ワークショップ「学ぶ力・教育力を育てる教育方法」

・「助産学概論におけるアイデンティティの育成」川崎圭子佐賀県立総合看護学院助産科教務主任

・「助産管理論におけるアクティブラーニング」新地裕子九州医療センター附属福岡看護助産学校助産科教育主事

*演題「あきらめないころ」伊藤真波北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表（日本初片腕義手の看護師 授乳中の母）

専門職が力を発揮できる職場作るためには、柔軟な実行力・思考力、「しなやかさ」を持ち、組織ルティーンを学習しそれを超える行動をとり、そこから離脱し、新しいルールを創出することが重要であり、そのための育成プログラムを推進する必要があることが理解できました。また、障害を持ちつつ、看護師として元パラリンピック競泳日本代表として、そして母、妻として「あきらめない心」で人生を歩む姿に共感、勇気を、教育への示唆を得ることができました。

一方、子宮頸がん検診や、臨床薬理学、震災を見据えた地域・他職種連携の必要性、教員の日々の研鑽の場として全助協の意義を再確認する機会となりました。

参加者間で教育方法や教育情報の交換、ピアサポートに向けての現状や課題解決を探り、学生の学ぶ力を引き出し、教師や臨床指導者の教える力を強化することに繋がれば幸いです。

皆さまと座長の労を取っていただいた先生方、6名の実行委員、5名の教員と15名の学生協力員に支えられ、無事成功裡に終えることができました。なお、宮崎県の補助金を活用致しましたことを申し添えます。

収支決算報告書

収支決算報告書			
収入の部			
会員	¥10,000	81名	¥810,000 事前受付73名 当日受付8名 計81名
非会員	¥12,000	18名	¥216,000 事前受付16名 当日受付2名 計18名
助産師学生	¥3,000	13名	¥39,000
協賛金			¥30,000 展示1社
宮崎県補助金			¥600,000
収入合計			¥1,695,000
支出の部			
人件費	謝金、交通費	¥249,670	講師7名
	謝礼	¥63,490	講師助手交通費、アルバイト代
会場費		¥1,348,380	宮崎観光ホテル使用料、映像機器使用料等
その他	雑費	¥33,460	切手代、講師等茶菓子等
支出合計			¥1,695,000

平成 29 年度 第 8 回（通算 53 回） 公益社団法人 全国助産師教育協議会定時社員総会報告

平成 27-28 年度 全国助産師教育協議会副会長
国際医療福祉大学大学院 佐藤 香代

平成 29 年 6 月 10 日（土）・11 日（日）、第 8 回（通算 53 回）定時社員総会が、東邦大学で行われましたので、概要を報告いたします。

総会には、正会員 152 校、総正会員数 304 名のうち 283 名の出席（本人 212 名、書面出席 71 名）がありました。

井村真澄会長の開会挨拶では、1 年間の活動報告と今後の課題、方向性が述べられました。続いて、ご来賓の厚生労働省医政局看護課長 島田陽子様、文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 齊藤しのお様、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健指導専門官 中根恵美子様よりご挨拶があり、看護系大学における助産師教育や母子保健政策の動向についての話題を提供していただきました（それぞれの資料はホームページに掲載しておりますので、ご参照下さい）。

総会議長には、葉久真理氏、梅野貴恵氏が、議事録署名人には、阿南美奈子氏、原田加奈美氏が推薦され、承認されました。議長より定款第 30 条に基づき正会員の過半数に達しており、総会が成立していることが報告され、議案の審議に入りました。

まず各委員会の担当理事より平成 28 年度委員会活動が報告されました。助産師養成課程教員のキャリア調査の要望については、佐藤香代副会長（総務担当）より今後検討するとの回答がありました。続いて、連合大学院や実習調整機構についての質問には、モデル地区での実施等、今後の方向性として考えていきたいとの回答がありました。さらに子宮頸がん検査に取り組む理由については、井村会長が説明しました。

続いて、井村会長より「厚生労働省看護職員確保対策特別事業」が報告され、池内佳子地区長総括より、平成 28 年度地区活動の報告がありました。また、兵頭慶子委員長より、宮崎市で行われた全国研修会の報告がなされ、以上の事業報告は過半数をもって承認されました。さらに、福島裕子会計担当理事より平成 28 年度収支決算が、熊澤美奈好監事より監査報告があり、平成 28 年度収支決算及び監査報告は、過半数をもって承認されました。

次に佐藤副会長が、平成 29 年度事業計画の説明・報告を行い、福島会計担当理事から平成 29 年度収支予算の説明・報告がありました。

会員から出された 1 年教育課程のコアカリキュラムについては、佐藤副会長がこれまでの経緯を説明し、まずは 2 年課程のコアカリキュラムの完遂を目指すこと、教育課程新設への支援についての質問には、希望校からの問い合わせには個別に全助協の知

見を提供している旨を説明しました。また余剰金の次年度の使用については福島会計担当理事より説明がありました。

続いて選挙管理委員長の岡山久代氏より、平成 29-30 年度の役員候補者（下欄）について説明があり、過半数をもって承認されました。なお、会員から、理事の教育課程別構成についての意見がありました。

理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
監事：猿田 了子、武田江里子（50 音順）

以上をもって総会を閉会しました。

その後は、井村会長から、子宮頸がん検査に関して、今回の経過と全助協の方針が述べられ、日本赤十字社医療センター第一産婦人科副部長の山田学氏より、教育講演「子宮頸がんの発生機序・検査の方法・結果のフォローアップ」が、大石時子理事からは「子宮を守る一助産師業務と子宮頸がんの関係性」が述べられ、その後、意見交換が行われました。

2 日目は新しく選出された井村会長が抱負を述べ、新役員の紹介を行い、続けて旧役員の退任挨拶がありました。日本助産学会からは助産ガイドライン 2016 の説明が行われ、CLoCMiP レベルⅢ認証制度の評価と今後の更新要件等については、井村会長が報告しました。

地区別打ち合わせでは、地区長選出や地区研修会の活動等が検討され、その後、教育課程別検討会が行われました。その後の全体報告会では、上記の内容が報告されました。また関東甲信越地区の岩崎和代氏から、第 43 回全国研修会を平成 30 年 2 月 10 日（土）・11 日（日）に、開催する予定であることが報告されました。

最後に我部山キヨ子副会長が閉会の挨拶を述べ、2 日間を無事に終了することができました。盛り沢山の内容で濃い 2 日間でしたが、会員の皆さまのご協力に、深く感謝申し上げます。

総会後の地区長打ち合わせでは、地区長の位置づけ、責務、地区長会の開催、地区研修会で行う課題、会計について説明し、意見交換を行いました。地区長総括は東京地区の島田真理恵氏に決定いたしました。

6 月より新たな理事会メンバーで本協議会の公益事業に取り組むこととなります。会員の皆さまには、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

LGBT の基礎知識, そして, 学校と医療との連携

岡山大学大学院保健学研究科 教授

岡山大学ジェンダークリニック 医師

GID (性同一性障害) 学会 理事長 中塚 幹也

「性」の構成要素

性を決定するための視点は多様である。身体の性は、①性染色体 (男性型は XY、女性型は XX)、②内・外性器の解剖 (陰茎や陰核などの外陰部の形状や子宮や卵巣などの内性器の形状)、③性ステロイドホルモン (男性ホルモン、女性ホルモン) のレベルなどから決定される。

他にも、性同一性 (性の自己認識、略して「性自認」。物心ついた頃から表れる「自分は男 (または女)」という認識、「心の性」とも呼ばれる)、性役割 (男性として、女性として果たしている役割)、性的指向 (恋愛や性交の対象となる性別、「好きになる性」とも呼ばれる) などの視点もある。これらは、幼少時からのエピソードなどを本人や家族から十分に聞き取ることから判断される。

性的マイノリティと LGBT という言葉

「マイノリティ」とは「マジョリティ (大多数の人々)」に対して、そうでない人々であり、本来は「多いか、少ないか」により決まるものではある。しかし、「マイノリティ」という響きに「劣った」というニュアンスを感じる人々も多い。「性的マイノリティ」という言葉は好ましくないと考える当事者もおり、レズビアン (L)、ゲイ (G)、バイセクシュアル (B)、トランスジェンダー (T) と、それぞれのアイデンティティを明確にしたいという人々もいる。このため、それぞれの頭文字を取った LGBT という言葉が使用されることも多くなっている。

I (インターセックス、性分化疾患) を加えた LGBTI、また、Questioning (不確定)、Queer (個性的) の Q を加えたり、さらに、A (アセクシャル、無性愛) を加えたりする場合もあるが、性の視点はいくつもあり、その中での位置づけも多様であることから、LGBTIQA といくつかの頭文字を並べていっても「自分は、そのどれにも当てはまらない」と感じる人々は存在することになる。また、性的マイノリティや LGBT という言葉に連帯感を持つ当事者もいるが、そのように位置づけられることが嫌な当事者 (グループ) もいる。

SOGI という言葉

性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) の頭文字を合わせた言葉であり、性的指

向が異性愛の人々 (ヘテロセクシャル)、性自認が身体の性と一致している人々 (シスジェンダー) も含めたすべてのグラディエーションを表す概念である。しかし、性に関する視点は、性的指向と性自認 2 つのみではないため、その他の性の視点からの悩みを持つ人々にとっては、「しっくりこない」と感じることになる。また、SOGI も、性的マイノリティ、LGBT と同じ文脈で使用される場合も見られる。

あなたの性別は？

性に関する視点はいくつもあるが、男性型と女性型の 2 者選択ではなく、視点ごとにグラディエーションがある (図 1)。また、その立ち位置は 1 点ではなく幅を持っている、「私の身体の性は女性で、心の性も女性、好きになるのは男性。服装や髪型はボーイッシュな感じ」「私は、身体の性は男性で、心の性は女性、好きになる性は、どちらかと言うと男性。服装は中性的な物を着ることが多い」というように、図の中に書き込んでみようとすると、1 人として同じ人はいないことがわかる。

性同一性障害の診断

トランスジェンダーのうちの一部であり、医療を希望した人々に対して用いる診断名として「性同一性障害 (Gender Identity Disorder: GID)」がある。性同一性障害とは、「身体の性」と「心の性」とが一致しない状態であり、自身の性器や身体の特徴に

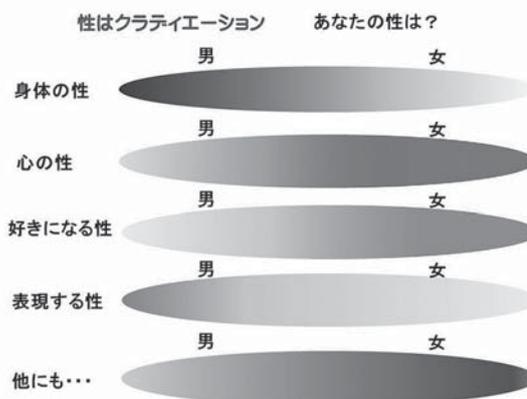


図 1. 多様な性の視点とそのグラディエーション

あなた自身の位置に⇒を書き込んでみましょう。一人として、同じ人はいないことがわかります。ただし、この図は他の人に無理に書くことを勧めたり、みんなで見せ合ったりするためのものではありません。

嫌悪感を持ち、二次性徴が始まると苦痛を感じるなど、「性別への違和感」を持つ。心の性は男性、身体の性は女性である female to male (FTM、トランスマン) と、心の性は女性、身体の性は男性である male to female (MTF、トランスウーマン) とに分類される (表1)。

性同一性障害の診断を行う上で、どのような性役割で暮らしているか、性指向が男性に向いているか、女性に向いているかは問わない。この点では、身体の性と心の性とは一致していて、性指向が身体の性と同じ性別に向かう同性愛とは異なる。

LGBT 当事者の推計

インターネット調査ではあるが、2015年、電通ダイバーシティ・ラボは、LGBT 当事者の推計数として、日本人の7.6%としている。また、2016年には、博報堂DYグループのLGBT総合研究所も日本労働組合総連合会(連合)の総合男女平等局も約8.0%であったことを公表している。日本国内のジェンダークリニックを持つ主要な医療施設を受診している性同一性障害当事者の調査から、全国で約3万人

との調査結果があるが、自己判断でホルモン療法を行っていたり、違和感を持ちながらも受診できなかったりする多くの当事者が存在している。

子どもの頃のLGBT 当事者

LGBT 当事者は、子どもの頃から悩みを持つことが多いが、周囲に告白することは困難である。家族にも話すことができないことも多い。性同一性障害の子どもは、二次性徴の進む自身の身体を見ることや、呼称、制服、トイレ、更衣、入浴など、日常のあらゆる場面で辛さを感じることで、ホルモン療法や手術療法を必要とすることなど、支援の内容は、同性愛・両性愛の子どもとは異なる。しかし、自殺念慮、自傷・自殺、不登校、いじめ等が高率であることは、LGBT の子どもすべてに共通する。

岡山大学ジェンダークリニックを受診した性同一性障害当事者が経験していたことをみると、自殺念慮(58.6%)、自傷・自殺未遂(28.4%)、不登校(29.4%)は高率であり、MTF 当事者の方がFTM 当事者よりもやや高率である(表2)。また、うつや不安症などの精神科合併症の発生率は高く(16.5%)、

表1. 性同一性障害の鑑別

	身体の性				その他の性の視点		
	遺伝子・染色体	性器の形態	性ホルモン	性自認	性指向	性役割	
性同一性障害	MTF	男性	男性	男性	女性	問わない(男)	問わない
	FTM	女性	女性	女性	男性	問わない(女)	問わない
	MTX	男性	男性	男性	不定・変動	問わない	問わない
	FTX	女性	女性	女性	不定・変動	問わない	問わない
同性愛	ゲイ	男性	男性	男性	男性	男性	問わない
	レズビアン	女性	女性	女性	女性	女性	問わない
両性愛		男性	男性	男性	男性	男性～女性	問わない
		女性	女性	女性	女性	男性～女性	問わない
無性愛		男性	男性	男性	男性	ほとんどない	問わない
		女性	女性	女性	女性	ほとんどない	問わない
性分化疾患 (DSDs)	特定されない (疾患・個人により異なる)			問わない	問わない	問わない	(疾患・個人により異なる)

性同一性障害の診断には性指向を問わないが、典型例では()内の性の方へ向かうため、外見的には同性愛(ホモセクシャル)のように映る場合もある。しかし、性自認(心の性)からみると異性愛(ヘテロセクシャル)である。性自認は揺れることもあり、特に、子どもの場合は慎重な観察が必要である。また、Xジェンダー(MTX、FTX)と呼ばれ、大人になっても性自認が揺れたり特定できなかったりする場合も見られる。性指向に関しては、同性愛以外に、両性愛(バイセクシャル)や無性愛(アセクシャル、エイセクシャル)という状態もある。半陰陽やインターセックスという用語は適切ではないとの意見もあり、性分化疾患(DSDs: disorders of sex development、あるいは、differences of sex development)が用いられるようになっている。同じ性分化疾患(例えば副腎過形成)であっても症例により性自認は女性であったり、男性であったりする。また、上記以外の多様な形をとり得ることに留意する必要がある。

表2. 性同一性障害当事者の経験

	全体	MTF	FTM
自殺念慮	58.6% (676/1,154)	63.2% (268/424)	55.9% (408/730)
自傷・自殺未遂	28.4% (327/1,153)	31.4% (133/423)	26.6% (194/730)
不登校	29.4% (341/1,158)	30.8% (131/425)	28.6% (210/733)
精神科合併症	16.5% (189/1,148)	25.1% (106/422)	11.4% (83/726)

いじめを受けやすいことなどもあり、MTF 当事者では4人に1人と非常に高率である。

ホルモン療法を始めたかった年齢

性同一性障害当事者がホルモン療法を開始したかった年齢は、FTM 当事者では平均 15.6 歳、MTF 当事者では平均 12.5 歳であった（表3）。FTM 当事者では、男性ホルモン療法を始めれば、月経も止まり、身体も男性化していくことが多いが、MTF 当事者の低い声、ひげ、がっちりした体形に関しては、女性ホルモン製剤を投与しても変化が少なく、一旦、男性化してしまうと、女性的な体形を得ることは困難になる。この違いが性同一性障害について知りたかった時期の違いに反映されていると考えられる。

学校と医療との連携

LGB（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル）の子どもと異なり、T（トランスジェンダー）の子どもは、医療とつながることでメリットは大きい。日本精神神経学会のガイドライン上でも、二次性徴抑制療法が認められており、二次性徴を抑制しておいて、慎重に診断を確定した後に、望む性の特徴に近づける性ホルモン製剤の使用に移行することで、最終的な外見を望む性の特徴に近づけることができる。また、自殺や不登校を予防することにもつながり、学校生活を継続し、学歴の確保にもつながる。

そして、ホルモン療法や手術療法、さらには、戸籍上の性別変更が行われると生活の質（QOL）が非常に向上する。しかし、思春期に二次性徴を抑制するためには、学校と医療との連携は必要不可欠である。

LGBT、性同一性障害を誰がいつ教える？

二次性徴抑制療法という医療的受け皿が準備されたにもかかわらず、子どもは性同一性障害という状態があることを知らず、自身の悩みの原因を理解で

きないことも多い。このことを考えると、「性別違和感を持つ子どもに対しては、二次性徴が始まる小学校高学年までに性同一性障害について、誰かが説明することが望ましい」という結論になりそうである。

2015年、文部科学省は「性同一性障害の児童生徒へきめ細かな対応を」と通知し、性的マイノリティの児童生徒への対応として、「教員研修」「チームでの支援」「医療機関等との連携」の重要性を指摘した。学校の中においても、アライ（Ally）と呼ばれるLGBTにフレンドリーな支援者の増加も期待されており、性の多様性についての適切な教育をすべての子どもへ提供することが求められている。

学校において、LGBTは人権問題として扱われることが多いが、性教育や健康教育の中で扱うことのメリットは大きい。性教育のために学校に出向くことの多い助産師が、LGBTに関する知識を持てば、子ども、そして、教員や保護者に語りかけることが可能になる。

GID（性同一性障害）学会では、認定医を目指す医師向けの研修会を定期的に開催しており、その他の医療スタッフにも開放している。医学的な知識のみではなく、教育や法律などの社会的課題についても学習する機会となっており、ぜひ受講していただきたい。

参考文献

1. 中塚幹也：封じ込められた子ども、その心を聴く性同一性障害の生徒に向き合う、pp.1-260、ふくろう出版、岡山市、2017。
2. GID学会ホームページ URL: <http://www.gid-soc.org/>

表3. 性同一性障害についての説明、治療をしてほしいと考える年齢
(中学生以前に性別違和感の始まった当事者への調査から)

	FTM 当事者 (116 人)	MTF 当事者 (47 人)
回答時の年齢	28.4 ± 6.6	32.5 ± 10.2
「性同一性障害」を知った年齢	22.0 ± 6.6	27.0 ± 9.8
二次性徴を自覚した年齢		
乳房腫大 or 変声	12.1 ± 1.7	13.5 ± 1.7
初経 or ひげ	12.8 ± 1.6	15.3 ± 2.7
それぞれを希望する年齢		
「性同一性障害」についての説明	12.2 ± 4.2	10.7 ± 6.1
ホルモン療法	15.6 ± 4.0	12.5 ± 4.0
乳房切除手術 or 豊胸術	16.7 ± 4.5	16.1 ± 3.9
性別適合手術	18.2 ± 6.0	14.0 ± 7.6

(平均値 ± 標準偏差)

助産師教育を振り返って気付いたこと

鳥取大学医学部保健学科 母性・小児家族看護学講座 助教 大島 麻美

助産師教育に携わるようになり、今年で5年目となりました。

私が助産師教育に携わるようになったきっかけは、大学時代の恩師の勧めでした。当時、私は助産師として病院に勤務しており、ちょうど分娩の直接介助の指導を行うようになった時期でした。それまで助産師の先輩方が助産学生に教える姿を見てきましたが、実際に自分が教える立場になると、「どこまで教えてあげればよいのか」、「助産師として何を大切にしてほしいのか」、「どのようにしたら学生にわかりやすく伝わるのか」、「学生の進度に合わせた指導とは」等、試行錯誤の毎日でした。そのような時に恩師の勧めがあったこと、また産科病棟縮小が決まっていたこともあり、助産師としての今後の自分の姿を考え、自身が学んだ母校で「助産師の卵・助産師の仲間を育てる」という道を選びました。

最初の2年間は看護教育、助産教育を学びながら、母性家族看護学実習、助産学実習の実習指導に必死に励んでいた記憶があります。最初は臨地実習指導者の立場との違いに戸惑いながら、“教員として”教えるとは？ということを中心に考えていました。人に教えるためには、まず自身の知識・技術が十分に備わっていなければなりません。学生に質問されても答えられないことも多々あり、その度に学生とともに学ぶという姿勢を続けてきました。

実習での教員の役割が少しずつ理解できてきた3年目頃からは、学生一人ひとりに合わせた指導とは？ということを考えるようになりました。助産学実習は、1施設に1～2人という少人数で実習を行うのですが、一人ひとりの学び方、助産技術の習得進度は異なります。学生の中には、なかなか習得できていない焦りや劣等感を感じる者もいます。そのような時に私は、対象者に行う看護と同じように学生に寄り添い、学生の出来ていることを認め、出来ていないことは出来るように一緒に目標を考え、少しずつでも一步一步前に進めるように心がけるようになりました。

助産師教育をしていく中で、必ず私が伝えるようになったことがあります。それは、「五感をしっかり使って対象者を理解できる助産師になってほしい」ということです。学生が分娩介助を始めた最初の頃は、様々な医療機器もあり、対象者に触れなくても分かった気になっている場面をよく見かけます。しかし、触れないとわからないこともたくさんあります。対象者をよく“みる”ことは、助産に限らずどのような場面でも重要です。対象者に関心を持ってみることで、対象者にも“自分のことを看ている”という気持ちが伝わります。対象者が考える良いお産をするために、しっかりと対象者を見て、理解し、そっとお手伝いをするのが助産師ではないかと思えます。

約4年半の助産師教育を振り返ってみると、少ない臨床経験の中からも助産師として伝えたいこと、教員として伝えたいことが少しずつ出来上がっていたことに気付きました。卒業した教え子が就職後に、「実習のときは大変だったけど、たくさんのことを教えてもらえてよかったです。今とても役に立っています。」というメッセージをくれたことがあります。1人の助産師として、教員としての教えが少しでも伝わっていたことに非常に嬉しく思ったのと同時に、改めて教員としての役割が少しは果たせたという実感がわきました。

在学中のみならず、卒業後も学生一人ひとりが少しずつ成長していく姿を見る事がとても嬉しくもあり、助産師教育の楽しさを実感しています。

助産師としての経験も十分ではありませんが、学生とともに自分自身も成長していくことが出来るように、今後も助産師教育に励んでいきたいと思えます。

公益社団法人 全国助産師教育協議会

平成 29 年度 第 1 回理事会議事次第

日時：平成 29 年 5 月 20 日（土） 11：00～16：00

場所：東京都助産師会館 5 階（会議室）

出席理事：井村真澄、我部山キヨ子、佐藤香代、
大石時子、久保田君枝、鈴木康江、
高橋順子、福島裕子、渡邊典子

出席監事：熊澤美奈好

欠席理事：兵頭慶子

欠席監事：島田啓子

出席幹事：潮田千寿子、山崎圭子

書記：潮田千寿子（敬称略）

理事総数：10 名 出席理事：9 名

監事総数：2 名 出席監事：1 名

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

- 1) 第 7 回理事会議事録承認
- 2) 各地区の pap smear の研修にむけて
- 3) 将来構想委員会より
- 4) 広報委員会より
次号発刊時期、記事内容、広告料について
- 5) 会計担当理事より
 - ①パートタイム労働者就業規則
 - ②平成 29 年度収支予算書・各委員会予算案
- 6) 研修センター運営委員会
 - ①HP 上での研修申込み手続きと入出金管理
 - ②e-learning システム導入の見積
 - ③センター運営委員増加について
- 7) 正会員入会・退会承認
 - ①新規入会校 6 校、退会校 1 校（現在 152 校）
 - ②個人会員入会の承認について
- 8) 総会議事次第について
- 9) 平成 29 年度全国研修会日程について
- 10) 内閣府立ち入り検査の日程について

III. 報告事項

- 1) 国際関連活動委員会について
- 2) 社会貢献委員会：地域連携班より
 - ①「健やか親子 21」活動について
 - ②第 31 回日本助産学会、学生交流会、ポスター発表について
 - ③リーフレット活用状況調査について
- 3) 会計担当理事より会計報告
 - ①平成 28 年度決算報告書について
- 4) 研修センター運営委員会について
 - ①平成 27 年度・28 年度「助産師教育研修研究センター報告書」の配布について
 - ②ファーストステージ研修と CLoCMiP 対応表について
 - ③事務局業務について
- 5) 日本助産実践能力推進協議会について

6) 平成 29 年度自由民主党対策議員連盟総会について

IV. その他

- 1) 大阪府助産師会創立 90 周年記念事業式典祝電及び生花
- 2) 助産師国家試験のプール問題について

平成 29 年度 第 2 回理事会議事次第

日時：平成 29 年 6 月 9 日（金） 11：00～16：00

場所：東邦大学看護学部 第 1 会議室

出席理事：井村真澄、我部山キヨ子、佐藤香代、
大石時子、久保田君枝、鈴木康江、
高橋順子、福島裕子、兵頭慶子、
渡邊典子

出席監事：熊澤美奈好

欠席監事：島田啓子

出席幹事：潮田千寿子、山崎圭子

書記：潮田千寿子（敬称略）

理事総数：10 名 出席理事：10 名

監事総数：2 名 出席監事：1 名

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

- 1) 平成 29 年度第 1 回理事会議事録承認について
- 2) 研修センターの研修登録の WEB での提案の見積書について
- 3) e-learning システム導入およびメンテナンス等の見積書について
- 4) さくらノートに「助産師になる」の掲載について
- 5) 個人会員入会の承認について
- 6) 正会員入会申し込書の見直しについて
- 7) 総会運営について
- 8) 会計担当理事より総会資料について
- 9) 将来構想委員会から報告書について
- 10) 総会前日の理事会に係る旅費・宿泊費等について

III. 報告事項

IV. その他

- 1) 日本助産師会創立 90 周年記念式典出席について
- 2) 日本助産師会・大阪府助産師会へのお礼状について

平成 29 年度 第 3 回理事会議事次第

日時：平成 29 年 6 月 10 日（土） 17：10～16：00

場所：東邦大学看護学部 第 1 会議室

出席理事：井村真澄、大石時子、久保田君枝、
永橋美幸、福島裕子、正岡経子、
村上明美、若井和子、渡邊典子

欠席理事：渡辺浩子

出席監事：猿田了子、武田江里子
 出席幹事：山崎圭子、森聖美
 書記：潮田千寿子（臨時）（敬称略）
 理事総数：10名 出席理事：9名
 監事総数：2名 出席監事：2名

議事次第

I. 自己紹介

II. 審議事項

- 1) 新理事体制
 - ①会長（代表理事）、副会長および各委員会
担当理事選出
 - ②幹事選出
- 2) 日本助産評価機構の理事及び委員選出について
 - ①新理事の選出について
 - ②資格審査等の実務関連の委員選出について
- 3) 将来構想委員会への幹事配置およびメンバー
召集について
- 4) 平成30年度総会の日程・場所について

平成29年度 第4回理事会議事次第

日時：平成29年8月12日（金） 11：00～16：00

場所：東京都助産師会館 5階 会議室

出席理事：井村真澄、大石時子、久保田君枝、
 永橋美幸、福島裕子、正岡経子、
 村上明美、若井和子、渡邊典子、
 渡邊浩子

出席監事：猿田了子、武田江里子
 出席幹事：森聖美、山崎圭子
 書記：森聖美（敬称略）
 理事総数：10名 出席理事：10名
 監事総数：2名 出席監事：2名

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

- 1) 理事会議事録承認
- 2) 教育検討委員会：教育評価班より
予算の返納について
- 3) 資格・専門能力委員会活動費の修正について
- 4) 会計担当理事より
 - ①委員会活動に伴う補正予算案について
 - ②謝金に関する覚書について
 - ③契約要項変更書（案）について
- 5) 事務処理規定（案）について
- 6) 将来構想についての理事会の取り組みについて
- 7) 平成30年度 第9回社員総会日程・場所について
- 8) 第32回日本助産学会学術集会の開催について
- 9) ニュースレター No.89 発刊（案）
- 10) 個人会員入会の承認について
- 11) 正会員入会申込書の見直しについて
- 12) 【テキスト版】オーサーシップについて

III. 報告事項

- 1) 立ち入り検査報告について

- 2) 研修センター事業進捗状況について
- 3) 教育検討委員会：教育推進班より
大学院におけるモデル・コア・カリキュラム
のデルファイ調査について
- 4) 災害関連の今後の予定について
- 5) 組織強化委員会の今後の活動予定について
- 6) 広報委員会より
 - ①HP運営会社の変更経緯と運用状況について
 - ②ニュースレター No.89の記事・担当者について
- 7) 近畿地区研修会の報告
 - ①近畿ブロック助産師学生交流会
 - ②近畿地区研修会
 - ③子宮頸がん検診の講習会について
- 8) 平成29年度理事会・地区長会日程について
- 9) 日本助産評価機構理事・委員の選出について
- 10) 「保健師国家試験、助産師国家試験、看護師国家試験について」
- 11) 平成28年度厚労省看護職員特別事業研究報告書

IV. その他

- 1) 日本看護協会 新執行部披露パーティー出席
報告について
- 2) 「ひまわり褒章2017」表彰式に学生参加のご案内

平成29年度 第5回理事会議事次第

日時：平成29年9月18日（月祝） 11：00～16：00

場所：東京都助産師会館 5階 会議室

出席理事：井村真澄、大石時子、久保田君枝、
 永橋美幸、福島裕子、村上明美、
 若井和子、渡邊典子、渡邊浩子

欠席理事：正岡経子
 出席監事：猿田了子、武田江里子
 出席幹事：森聖美、山崎圭子
 書記：森聖美（敬称略）
 理事総数：10名 出席理事：9名
 監事総数：2名 出席監事：2名

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

- 1) 第4回理事会議事録案の承認について
- 2) 平成29年度 追加予算書
- 3) 各地区 pap smear 研修への取組みについて
- 4) Sweden と Norway の助産師教育視察について
- 5) 災害支援について
- 6) 組織強化委員会より
 - ①未加入校及び新設校に関する情報把握の方法
 - ②個人会員増加のための取組み及び予算について
- 7) 将来構想委員会
- 8) ニュースレター No.89 進捗状況について
- 9) 資格・専門能力委員会より
 - ①資格・専門能力委員会委員増員について
 - ②保健師国家試験プール問題公募事業概要の
紹介
- 10) 個人会員入会の承認について

Ⅲ. 報告事項

- 1) 国際関連活動委員会より
地区研修会における子宮頸がん検査の研修に関する報告書について
- 2) 教育検討委員会：教育推進班より
①モデル・コア・カリキュラム説明会開催
②中部地区研修会の報告
- 3) 教育検討委員会：教育評価班より
①助産師教育課程卒業時の到達度目標に対する到達度自己評価について
②デルファイ調査について
- 4) 社会貢献委員会より
①第32回日本助産学会全国助産師学生交流会・講演会等進捗状況
②「オレンジリボン運動」経過報告
- 5) 組織強化委員会より
未加入校、新設校、個人会員増加のための取り組みについて
- 6) 将来構想委員会より
- 7) 平成28年度厚労省看護職員特別事業研究報告書について
- 8) 平成30年度予算編成に向けた要望書について

Ⅳ. その他

- 1) 日本助産実践能力推進協議会
- 2) 日本看護協会出版会からの「転載許諾のお願い」について

平成29年度 第6回理事会議事次第

日時：平成29年10月29日（日）11：00～16：00

場所：東京都助産師会館 5階 会議室

出席理事：井村真澄、大石時子、久保田君枝、
永橋美幸、福島裕子、正岡経子、
村上明美、若井和子、渡邊典子、
渡邊浩子

出席監事：猿田了子、武田江里子

出席幹事：山崎圭子

欠席幹事：森 聖美

書記：山崎圭子

(敬称略)

理事総数：10名 出席理事：10名

監事総数：2名 出席監事：2名

議事次第

I. 会長挨拶

Ⅱ. 審議事項

- 1) 第5回理事会議事録案の承認について
- 2) 「大学院における助産師教育のモデル・コア・カリキュラム（案）説明会について
- 3) pap smear 地区研修会報告フォーマット
- 4) 災害支援について
- 5) 日本助産実践能力推進協議会：機関誌「アドバンス助産師」第2号への「教員」更新要件内容について
- 6) 日本助産学会プレ कांग्रेस：次世代育成地域包括システム時代に求められる助産実践能力 運営担当について
- 7) 第43回全国研修会プログラムについて

Ⅲ. 報告事項

- 1) 平成29年度 委員会修正案
- 2) 九州北部豪雨の被災状況等調査結果
- 3) 将来構想委員会
- 4) ニュースレター進捗状況と発行部数について
- 5) 特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会について
- 6) 資格・専門能力委員会より
①第101回助産師国家試験問題検討の依頼送付文
②助産師国家試験プール問題公募に関する事業・活動計画
- 7) シンポジウム・プレ कांग्रेसのご案内

Ⅳ. その他

- 1) 第14回ヘルシー・ソサエティ賞 候補者について
- 2) 第4回「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」受賞式について

編 集 後 記

今年度から、全国助産師教育協議会の新たな広報委員会メンバーが決まりました。どの施設も、教育・実習担当のさなかのため、自施設で担う役割と全助協の広報委員会の仕事を並行することにかかなりの時間を費やしました。しかし、原稿が集まるにつれて、私たちが行う助産師教育が多くの方たちの尽力の賜物だと実感するようになりました。執筆頂いた先生方には、時間の制限があるなか、早く執筆をお引き受け頂き感謝しております。昨今、助産師教育年限について、議論が交わされていますが、私たちはこれからも、臨床と連携し、学生の「わかる」を導く教育を実践していきたいと思っております。また、助産師を目指した学生が、対象者さん、指導者さんから本当に良い刺激を頂き、自分なりの助産観を深めることができている。これからも、臨床と共同して助産師教育の充実をはかろうと考えております。今後とも助産師教育協議会をよろしくお願いいたします。

小嶋理恵子（愛媛県立医療技術大学）

井田 歩美（関西福祉大学）

古川 洋子（滋賀県立大学）

鈴木 康江（鳥取大学）

若井 和子（福山平成大学）

●助産師教育ニュースレター 第89号

2018年1月3日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)
会長 井村 真澄

〒112-0013

東京都文京区音羽 1-19-18 東京都助産師会館 2階

電話・FAX 03-3944-2911

(火・金 事務局在室)

<http://www.zenjomid.org/>

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp